

写真・動画の無断保存・使用と情報モラルの関係について

櫻井 宏樹 (22011142hs@tama.ac.jp)

1. はじめに

研究の背景として、近年はスマホのカメラ技術の進歩により誰でも綺麗な写真を撮ることができる世の中だが、自分が撮影した写真が他人に使用されたり・許諾していないのに営利非営利関係なく他サイトやSNSに無断で保存・使用・転載されている。

2018年には山形県の鶴岡市の観光物産課が写真の撮影者に許諾を得ないまま市のホームページ・観光パンフレットに掲載されていて問題になるなど、近年写真など著作物の無断使用が問題になっている。

そこで本研究では、SNSにおける無断使用・無断転載の現実を見た上で、他社理解度・自尊感情・情報モラルの3つの視点から無断転載・無断使用との関係性を明らかにすることを目的にする。

本研究を進めていく上で、3つの予測を立てて研究を行う。

1つ目は、相手の気持ちを汲み取り相手の立場に立って物事を考えることのできる他者理解度の高い人において情報モラルが高くなるのではないか。

2つ目は、自分自身の事を大切にできる能力である自尊感情が高い人は、顔の見えないSNSの向こう側にいる人のことを考えてSNSを利用しているのではないか。

3つ目は、無断保存・使用の有無及び著作権について理解や自らが権利を持っている著作物に対して他者に無断保存・使用されないために何かしらの対策を施していないのではないか。

これらの仮説を考えていくためにアンケート調査を通して調査する。

2. 先行研究の分析

「自他の権利尊重に関する情報モラルに影響する個人内特性の検討―自尊感情及び他者理解力に焦点を当てて―」(阪東・市原・森山,2014)

本研究で「自他の権利尊重」に関する情報モラルには、自尊感情と他者理解力という個人内特性が影響を与えたと考え、国立 教員養成系大学の大学1年生139名 (男子大学生63名 ,女子大学生76名)を調査対象とした調査を行った。

その結果の中で、相手の気持ちや考えを汲み取り相手の立場に立って考えることのできる他者理解力の高い人において、個人情報保護に関する情報モラルに対する意識が高くなると推察されると明かしている。

3. 研究方法

研究方法は2つになります。

1つ目には、無断転載の現状や情報モラル・著作権法に抵触する著作物の使用・保存の例など世の中にある多くの資料から資料調査

2つ目に18歳から29歳を対象にしたアンケート調査

4. 研究結果

SNSを日常的に使用していてSNS上に溢れている写真や動画のコンテンツにはひとつひとつ著作権が存在していることは多くの若年層が理解している一方で、保存や自分のサイトでも使用したいと思う度に投稿者に許諾を得る一連の手続きが面倒くさい点やSNSプラットフォーム利用者が非常に多く、私1人の無断保存・使用はバレない、大丈夫という安易な気持ちで無断保存・使用している人が多くいるのではということが推測できる結果となった。

5. 参考文献

自他の権利尊重に関する情報モラルに影響する個人内特性の検討

―自尊感情及び他者理解力に焦点を当てて―
(阪東・市原・森山,2014)

https://drive.google.com/drive/folders/1J6zml85eh3AqwXWn_Fd4Ov1ZKDFEej9